

議事録

会議名	開催日
高知市児童福祉審議会 第1回保育施設みらい構想検討部会	令和8年2月3日(火) 19:30~20:30
出席者	
(委員) 山下部会長、船井副部会長、齊藤委員、中屋委員、新谷委員、西口委員、森本委員、山崎委員 8名 (事務局) 大野部長、山中副部長 こども政策課 高橋課長、保育幼稚園課 宮地課長 他	
欠席者	
(委員) 三ツ石委員	

1 開会

2 議事 保育施設みらい構想検討部会 令和7年度報告

【こども政策課から説明】資料1、資料2

【質疑応答】

(山下部会長)

少子化に伴う高知市の現状について、保育施設の経営環境や事業の多角化、施設の統廃合、そして災害リスク等の視点からの説明があった。今後そういった状況を踏まえ、子どもたちがよりよく育つための施設環境について、今後検討していきたいと考えている。高知市からこれらのことに対する対応が3つの視点で示された。1つ目が、子どもの最善の利益を第一に、持続可能な教育・保育サービスを提供できる伴走支援に努めるということ。そして、保護者や地域の新たなニーズを捉えて、地域に根差した施設になるよう伴走支援すること。そして、公立施設の在り方検討ということである。この保育施設みらい構想検討部会の今後のスケジュールは、14ページにあるように来年度の夏頃に統廃合の検討基準を提示していただき、そこで具体的な検討を行い、翌年の2月と3月に進捗状況を報告していただき、議論を進める予定である。

本日は、令和7年度の報告について、委員の皆様から率直なご感想やご意見を伺いたい。

(齊藤委員)

事前に資料を確認したが、3つの対応については賛成である。施設の統廃合について公立保育園から進めるべきと厳しい意見があったとのことだが、私もそう考える。

私は保育園の保護者代表だが、いろいろな保護者に意見を聞くと、統廃合について不安を抱えている方がいた。子どもについては、生活環境の変化が影響を及ぼすのではないかと、保護者については、近くの保育園を選んでいる家庭は、遠くまで通わなければならない。完璧な対応は難しいとは思いますが、そうした状況をどうフォローしていくのか伺いたい。また、保護者が保育園を選ぶ理由には、近さ・利便性だけでなく、その園の特色を重視する意見もある。それをどのように反映・数値化し、今後統廃合を進めていくのか伺いたい。

(こども未来部長)

保護者と利用する子どもの利益を最優先に考え、統廃合を進めていく。そのためには少なくとも5年後を見据え、早めに協議を始める必要があると考えている。具体例を挙げると、ちより保育園が老朽化し安全面に不安があったため、当初は2～3年で閉園したいと考えていた。しかし、保護者説明会を開くと「入園時に説明が欲しかった」などさまざまな意見が出たため、すぐには進められなかった。その結果、最終的に5年間は存続を担保することになった経緯がある。このことから、時間をかけて保護者に納得いただいたうえで、最適化を図っていくことが重要だと考えている。

(齊藤委員)

保育園の良さの数値化についても検討してほしい。

(こども政策課)

保育園の特色について、保育の質を評価するのは難しい。例えば立地や保育の特色を売り出している園もあり、民間施設は特に特徴づけて経営されていると思う。公立園でも特別支援に力を入れている園や拠点園となっている所もある。そういった特色を踏まえて統廃合の対象施設を検討していきたい。

(船井副部長)

私は潮江地区で開業している。潮江地区では、東日本大震災以降、津波への不安が強く広がった。阪神・淡路大震災が起きた際は、耐震性が重視されていたが、津波のリスクが注目されるようになった。潮江地区は津波で沈むのではないかとされており、前回の南海地震の際に潮江地区が水没状態になった写真を見ると誰も住みたいと思わないのではないかと懸念する。春野地区も津波が来るので、安全性を最優先に判断する必要があると考える。津波避難タワーがあっても、保護者が迎えに来て安全な場所へ誘導できるかが課題である。潮江地区の保育園については、既に耐震化や建替を進めている園が多いので、そこを廃止すると問題が生じると思う。

職場が中心街にある保護者が春野地区や、長浜地区の保育園に子どもを預けると迎えに行くのに時間がかかるので、職場に近い中心街の保育園が有利だと感じる。街中から離れた地域の保育施設については、統廃合を進めていく必要があるという印象を持っている。

(こども未来部長)

潮江地区に関して、令和13年度に三重防護の工事が完成すれば、昭和南海地震クラスの津波では浸水しないというシミュレーション結果になっている。しかし、東日本大震災クラスのいわゆるL2の地震が起きた場合は、一定の浸水が避けられない可能性があるため、少なくとも令和13年までは対策を粘り強く進める必要がある。

船井委員が仰ったように、春野地区では既に保育園を2か所閉園したが、まだ、市立の保育園が多く残っているため、これらを最優先で統合していく方針で検討を進めていく。

(森本委員)

私どもの園の片方は、五台山地区と第1ブロックにあり、津波は直撃しない想定ではあるが、5メートルの浸水は免れないということで、屋上に上がる階段を設置した。高台移転の検討をした際に、高知県の補助金を受けようとしたが高知市が中核市であるので、補助の対象にならなかった。そのため、やむを得ず自費で建設した。高台移転等の助成については、高知市だけで負担するのではなく、高知県の財政支援なども活用する方向で進めないと対応が追いつかないと思う。

当園に通う園児は、五台山地区にあるが高須地区と介良地区と大津地区が中心で、五台山地区はほとんどおらず、南国市から通っている園児も多い。環境は良いと言われるが、津波への不安を訴える声もある。こうしたことから、防災面のハード対策は、特に第1ブロックについて、早急に検討すべきだと考える。

(新谷委員)

地震・津波といった子どもの安全面を考えると、統廃合はやむを得ないと感じる。子どもの育ちを考えてもアットホームの良さはあるが、ある程度の人数が必要だと思う。最近では、お昼寝の際も避難しやすい服装にするなどしていると聞く。災害のリスクがある園も、統廃合までの安全対策を意識してほしい。現在の保護者は、母親同士の横のつながりはほとんどなく、朝から夕方6時～7時頃まで子どもを預けている状況だと思われる。コミュニケーションをとることで、ゆとりが生まれると思う。少しゆとりが持てる働き方になればいいと思う。

(山崎委員)

10～11 ページに記されている今後の対応策について、「子どもの最善の利益を第一に持続可能な教育・保育サービスを提供できるよう伴走支援に努める」と記されている。この伴走支援とは、高知県社会福祉法人経営者協議会や高知商工会議所などに運営を委託するのか、それとも高知市が主体となって、新たな部門を創設して、相談窓口として引っ張ってってくれるのか。そういった計画があれば伺いたい。

(こども未来部長)

高知県社会福祉法人経営者協議会は、全国的なノウハウを豊富に持っている。高知市が主体となってすべてを実行するのは財政面で困難なため、繋ぎ役として関わり、どのように進めれば経営の維持に繋がるかを共に検討していきたい。事例として、高知愛児園が放課後デイサービスの導入を検討する際には、高知市の障がい福祉部門が全面的にバックアップした。今後もこうした先進事例を紹介しながら、伴走支援を進めていきたいと考えている。

(中屋委員)

私は鏡地区に住んでいる。鏡地区では幼稚園と保育園が統合され、現在は保育園として運営されているが、人口減少が著しく、現在の園児は9名しかいない。園の環境は良いが職場から遠いことが残念でならない。子どもが増えてほしいと思うが、何かあったときにすぐに駆けつけられないという不安から、保護者は職場に近い園を選んでしまうと思う。鏡は本当に良いところなので、ぜひ多くの方に来ていただきたい。

(西口委員)

資料2の公立園を見ると、昭和52年築、昭和55年築、昭和57年築といった古い建物が多く、しかも平屋建ての園もある。先日受けたBCPの研修で、南海トラフ地震の発生確率が上がっているという話があった。私は、まず何よりも「子どもの命を守ること」が最優先だと考える。保護者や子どもの最善の利益を考えて環境を変えることは必要だが、1番は子どもの命である。地震や津波から守ることができるか懸念している。

園ももっと努力するべきと思っており、子育て支援や園庭開放などに力を入れている園がある。先日、当園でも民生委員さんを招いて、ほおっちょけん学習会を開いた。そこで子どもたちは、おばあちゃんが老眼だとどのように見えるか、おばあちゃんがペットボトルを開けられないときはどう助けるかといったことを考える機会を持った。また必要なときに助けてと言える子になることを目指すなど異なる学習も行った。このような園の取り組みはとても重要だと考える。統廃合に伴い子どもたちが転園してきたとき

に、しっかり受け入れられる体制を整えるために、高知市が伴走支援し、サポートしていただければと思う。

(山下部会長)

委員の皆様の議論を聞き、改めて何よりも子どもの命を守る視点、将来にわたって豊かに育てるためにどのような施設が望ましいかを判断する子どもファーストの考え方を基準にすること、次に、そこで働く保育者が安心して一生懸命働ける環境づくり、3つ目に、子どもを安心して預けたい保護者の思いをしっかり汲み取ること。これら3つの視点を踏まえて今後の在り方を検討していく必要があると感じた。

これから各セッションでさまざまな議論が進むと思うが、本日の委員の皆様の視点もぜひ活かしていただきたい。来年度の夏頃に方向性が示されるとのことなので、引き続きよろしく願います。

3 閉会